

(様式第1号)

平成24年度 第1回 芦屋市次世代育成支援対策推進行動計画評価委員会 会議録

日 時	平成24年11月8日(木) 17:30 ~ 18:30
場 所	北館2階 会議室3
出席者	委員長 佐々木 勝一 委員 石濱 美奈子 委員 成田 直美 委員 西部 恵理 委員 大脇 巧己 委員 河盛 重造 委員 波多野 正和 委員 谷 初美 委員 野田 京子 委員 牧野 君代 委員 津村 直行 欠席委員 中田 智恵海(副委員長) 事務局 こども課 こども施策担当課長 宮本 雅代 こども課長 中村 尚代 こども課 保育所担当課長 本間 慶一 こども課主査 阿南 尚子
事務局	保健福祉部 こども課
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会の挨拶
- (2) 議題 平成23年度次世代育成支援対策推進行動計画実施状況及び評価について
- (3) 事務連絡

2 配布資料

- 資料1 平成23年度芦屋市次世代育成支援対策推進行動計画事業一覧(事前配布)
- 資料2 事業評価基準表
- 資料3 別添 平成23年度芦屋市次世代育成支援対策推進行動計画実施状況・平成24年度事業推進目標(事業No. 79, 80)
- 資料4 平成22年度 芦屋市次世代育成支援対策推進行動計画(後期)実施状況・評価結果報告書

3 審議経過

<開 会>

委員長より開会の挨拶

事務局より会議運営上、芦屋市情報公開条例により、本日の委員会は公開が原則であ

ること、議事録及び委員名も公開になること、会議録作成のため、録音を実施する旨を説明

事務局より傍聴希望者がいないことを確認

事務局より配布している資料の確認

<議 事>

(委員長) それでは、事務局は今年度の評価の取り組みについて説明してください。

【事務局より、評価基準についての説明、平成23年度評価について説明】

(委員長) はい、ありがとうございました。大変沢山の量で皆さんも大変だと思いますが、まず評価ですが、先ほどのお話にもありましたように、これはあくまで26年度までの計画で、途中の23年度はどうであったかという評価になっておりますので、その辺りは皆さま念頭においていただいていると思いますが、再度確認させていただきます。

この表ひとつひとつ事業の総括になっておりますので、どの部分からでも結構ですが、何かご意見がありましたらありがたいです。

(大脇委員) 22年度と23年度の全体についてですが、22年度から比べますと基本目標1のA評価が23年度で7つくらいB評価に落ちています。他の目標の2, 3, 5は上がっているのですが、そこだけがぐんと下がっているのがどうしてかなと思いました。22年度のA評価40あったのが23年度では33になっていますよね。

Bの評価が詳しく見られなかったのですが、何か原因や理由が分かっているのであれば教えていただきたいと思います。

(事務局) そうですね、AからBになった事業をいくつか見てはいたのですが、例の一つとして事業No.23、ページ数にしたら2ページになりますが、「青少年愛護センターの相談」という事業があります。これは青少年愛護センターが実施している事業ですね。実施状況の部分を見ていただきましたら、継続して実施はしていますが、相談員の職員が昨年度と比較し1名減少しています。22年度はA評価だったのですが、今回は計画策定の時と同じ体制になったのでB評価になっているということがあったのと、次のページの34番、3ページになりますが、「幼児のおやつと食事の教室」の事業も台風のため1回中止になっていたり、回数なり人なりが下がったなということもありまして、何で基本目標1のAばかりが下がっているのかという総評的なものはここでは申し上げられないのですが、また評価を見て確認していきたいと思います。

(大脇委員) 制度的に仕方がなかったとか、台風などの不可抗力であれば問題はないと思うのですが、どこが原因だったかというのは見ておかないとズルズルと崩れていく可能性もあるので、その辺りも分析できればまた教えていただきたいと思います。

(事務局) はい、また事業を見て報告いたします。ありがとうございます。

(委員長) はい、他によろしいですか。

(波多野委員) これを見させていただいた中で、何点か展開なり評価なりを聞かせていただきたいと思うのですが、まず2ページ目の18番「こどもの相談」ということで健康課が実施している分ですが、26年度目標が充実で23年度実績が継続ですね。予算と決算もそんなに変わらないということで継続して実施ですがA評価になっていると。その辺りの所がどうしてAなのかというのがこれだけ見ると分からなかったの、分ければ教えていただきたいのが一つ、それとですね…。

(委員長) 何箇所か質問があるようですね。それならば一つひとつ返答いただいた方が分かりやすいと思います。事務局は今の所はお答えできますか。

(波多野委員) 私は全く分かりませんので、これだけを事務的に見ればどこが評価されたのかと分かりにくいのでね。23年度の実施状況が前年度から比べると人数が上がっているのかも分かりませんが、その辺が分からなかったの。

(事務局) これは私の推測になってしまうかもしれませんが、22年度の報告書の方で同じ18番、7ページの下のところ「こどもの相談」がございますよね。ここも「充実」になっていますよね。まあ目標も充実なのですが。きっとこの時点で回数が増えたり、心理士の相談を広報に掲載したりとかして、ここで充実をしていてA評価に転じておりますので、現課はここで充実したのがそのまま充実が継続しているのでAですよというそういう感じではないでしょうか。

(波多野委員) その年度(22年度)は充実したかもしれないが、それが(23年度も)同じだったらB評価ではないのですか。そこからランクがアップすればA評価だと思うのですが。

(河盛委員) 予算は倍になっていますがね。22年度では決算が873ですが、23年度には1,825になっている。充実というのはそういうことではないのですか。金額が倍になっています。

(事務局) これはですね、表の見方ということで説明させていただいたと思うのですが、あくまでも去年と比較しないで26年度に対してどうかを見て下さいというものです。ですが、この実施状況の書き方が少しまずくて、Aに転じた時にはいつ何でAに転じたのかという理由をずっと記載しないと分からなくなってしまいます。先ほど波多野委員が言われたように、例えば診療回数が1回増えてAに転じたなどをここに記載してずっと続けなければ、何がAだったのかというのが分からなくなってしまいます。

ですから、この部分の書き方を、その年度にAに転じた時にはなぜAかを記載していった方が、今のような客観的に見てしまうと分からないということが起こらないのではないかと思います。この辺りにつきましては事務局の方で工夫させていただきたいと思います。

(委員長) 結構大変な作業ですが、それが無いとどう変わっていったのかが訳が分からなくなりますね。

(事務局) そうですね、そうしないと冒頭の説明と合わなくなってしまいます。冒頭で26年度と比較してくださいと言っている限りにはそれを記載するという風にしていった方がいいと思いますので。

(委員 長) 波多野委員，他にありますか。

(波多野委員) そういうことになりますと，他にお話しようとしていたことも大体同じです。

例えば10ページの113番「朝鮮人学校就学援助費」でも，前年に拡大をしているので，それが継続しているからA評価としているのでしょうか。前年との比較ではないということですから。もう一つ前の年度に制度拡大しているものですからね。それが継続しているからA評価という意味ですかね。

(事務局) はい，そうですね。

(波多野委員) それと14ページの132番「芦屋市教育振興基本計画策定・推進」はA評価になっていますが，A評価ではなくB評価ではないかという気がします。特段に何かよくなったというのが，今の所見当たらないのですが。

(河盛委員) 「未実施」だったのが「実施」になっているんですよ。

(事務局) そうですね，132番については「未実施」が「実施」になっている時点でAになりますね。

(波多野委員) もう一点ですが，16ページ164，特に165番の「自然学習が身近にできる環境づくり（里山づくり）」というところですが，これは分かりますように野外活動センターが閉鎖されてということなのですが，一番右のコメントの中に「市民ハイキングコースとして整備される事が望ましいと思われるため，関係課が里山整備として所管することが望ましい。」とありますが，その辺りについては当然市の内部として本当にこれでいいのかどうか，そのハイキングコースの部分で里山づくりの部分に位置づけていいのかどうか等のその辺の協議は進んでおられるのか，どういう風になっているのか分かる範囲で，まだということであれば今後協議をしていっていただきたいということです。これは意見としてですが，その辺りは分かりますか。

(津村委員) これはちょっと分からないですね。「市民ハイキングコースとして」というのは野外活動センターだけのことを言っているのかどうか。

(波多野委員) 全体のハイキングコースがありますけれども，その部分のハイキングコースの部分で自然学習が身近にできる環境づくりということで位置づけて，今後は野外活動センターがなくなったのだから経済課がやっていくべきではないかという意見が述べられているのかどうか，その辺の所なのですが。

(委員 長) これは事務局，お答えできますか。

(事務局) 事務局としては詳細が分かりません。

(波多野委員) でしたら，そういう意見があったということで，庁内できちっと協議をお願いしたいと思います。

(津村委員) 野外活動センターというのは，いわゆるキャンプ場ですね。それを青少年施設として運用していたのですが，地震で壊れて使えなくなって廃止にしました。

それとこのハイキングコースというのは，行政で言うと経済課が所管です。野外活動センターに隣接する所に柿谷のハイキングコースというのが，既に整備されています。しかも毎年痛んだところについては補修をしたりもしています。これは内部調整の話ですね。

(委員 長) そうですね，ここではちょっと議論できないですね。波多野委員，よろしいですか。

(波多野委員) はい、それは問題提起ということで。

(委員 長) 事務局さん、これは整備していただきたいと思います。

(波多野委員) そうすると一番右側のコメントの所の文言も変わってくる可能性がありますね。これは所管課だけで書いたということも考えられますので。

(委員 長) はい、他に沢山ありますけれど。特にここは聞いておきたいというところがありますか。市民委員の皆さん、どうですか。

(成田委員) 個々でなくていいですか。全体としてですが、評価に関連することで言えば項目の「23年度実施状況において、26年度目標に対して努力した点・未達成の理由等」と書かれてありますが、それが書かれてあるところと書かれてないところがあって、私たちはこのペーパーしか見ないので、それが本当にAなのかBなのかCなのか判断が難しかったということがあるのと、昨年度も気持ちの中で思っていました。事業数がすごく沢山あって、中には講演会もの、ミニ学習会など、所轄が違ってはいるものの内容的に似たようなものがある、それらはだいたいB評価になっていますよね。それはBだからよしとしてしまうのか、統合できるものは統合して充実したもの、例えば講演会などをすると人がどれだけ来てくれるのかという、人集めと言えは変ですが、参加者が沢山来てくれれば評価としては分かりやすいです。参加人数が少ないものもあるので、そういったものは統合できるのであれば統合してより充実した研修会であったり講演会であったり学習会であったり、できないのかなと思いました。

(委員 長) はい、分かりました。所管が違って共通の部分はお互いもう少し整理し合って、もっとよりよいものにしていった方がいいということですよ。

(成田委員) はい、内容的に例え参加者が少なくとも、それぞれの人たちにとっては充実した講演会や研修会ではあると思いますが、これは似ているという事業がいくつかあると思いますので、そういうところを検討していただけないのかなと思います。

(委員 長) よろしいですか、その辺は。

(事務局) はい、分かりました。

(津村委員) よろしいですか。整理をするということが一点、それから評価を参加の人数で見るのかどうかということに対して、内容によって市民の方たちが望む要求課題のようなものについては、はっきり言って参加人数は多いです。ですが、行政がやらねばならない必要な課題については参加が非常に難しい。それを一律に括るとするのは非常に難しさがあります。その辺は整理をする必要があります。

(委員 長) 他によろしいですか。それと先ほど成田委員がおっしゃった最初の部分ですが、記述の仕方の問題だと思います。そこをもう少し分かりやすく書けば、見た時にもっと分かりやすくなるということだと思います。

(事務局) そうですね、来年度実績について照会をさせていただく時には、各課に詳しく未達成の理由ですとか努力した点というのを書いていただくよう、申し添えたいと思います。ありがとうございます。

(委員 長) 他によろしいですか。なければ他に評価以外でも、ここは言うておきたいと

ということがありましたら。

(牧野委員) ええと、166番「小学校の校庭開放」についてなのですが、A評価がついております。小学校で安全な居場所というところの意味で校庭開放を実施されていると思うのですが、休み期間があるんですよね。12月から2月に。その理由が分からないのですが、子どもたちがお家から身近なところで遊べる安心安全な場所っていう、ご家庭でもそういう風に思っていच्छやると思いますが、市の方でもよりよい事業になるように改善を行うという風になっておりますが、休み期間がいるのか、何故いるのかということと、居場所づくりのことを考えたら休まないで校庭開放してあげて欲しいなと思います。

(委員 長) その辺は谷さん、何か。さきほど偉く賛同していच्छやったようですが。

(谷 委員) 休み期間があるのですが、うちの子は(休み期間でも)行っていますね。

(牧野委員) もちろん行っていますよね。

(谷 委員) 休み期間とかは無視して行っています。だから実際は変わらないと思います。

(委員 長) 無視して行くと言っても、鍵はかかっておらず開いているのですか。

(牧野委員) 開いているのは開いていますね。ただ、管理人さんがいないだけです。誰も居ない公園扱いです。12月から2月は。

(谷 委員) 先生方は学校にいच्छやるので、入れるのは入れます。

(委員 長) 問題はそこで事故か何かがあった時の責任はどうするかという話ですね。役所と利用している家族たちとの意見がちゃんと整理されていなければ、どうなんだということですよ。

(成田委員) 私はその校庭解放を担当しているのですが、現実の責任の所在とかは研修会とかをしても非常に揉めるところです。休みの期間についても本当は管理人がちゃんと居て子どもたちの場として提供できればすごくいいと思うのですが、今は管理人をしてくれる人もすごく減っていて、その確保は難しいと思います。もう辞めたいとおっしゃる方もいるくらいで、次の方がおられないから言葉はよくないですが、仕方無しにやっているのよとはっきり言われたりする方もおられるので。そういう協力者が居てくださって成り立つものです。

(委員 長) そうですね、責任ばかり重たくなりますからね。気の毒な。行政としてはその辺どうですか。

(津村委員) …以前私が担当していた事業です。

ここに書いてある校庭解放事業、いわゆる市の事業として、「放課後こどもプラン」の中でやっているという点が一点、その事業として見た時については放課後とあるように、基本的には学校がある時に子どもたちが学校の後に利用するという点が制度の趣旨で見るとあります。実際お世話になっている成田さんがおっしゃるとおり、具体的な部分になるとどなたも(管理人のような協力者が)いच्छやらない。これはこの事業だけではなくて、学校を利用しているコミュニティスクールの活動の中でも一緒なのですが。

(委員 長) そうでしょうね。

(津村委員) ですから例えば責任の所在で言うと、コムスクとか社会教育とかの中で活動する団体に、例えば学校が終わって1~2時間後に活動があるとすれば、子どもたちはそのまま学校に居て、その後の活動に参加できると本人もご家族も助かる。でもその空白の期間というのは、事故があった時にどこが責任を持つ

かという話題にもなります。

(委員 長) 一般的に言うと、行政は責任から逃れることが出来ないですね。

(津村委員) コミュニティスクールの活動というのは、いわゆる地域の人の活動です。学校側は学校が終わって学校を出て以降については、一旦家に帰るまでしか責任が持てないと言います。校庭を出て実際に帰るまでは下校に含まれますから、そこまでは学校の責任になります。ところが帰って以降は家庭の責任だという風になります。そうすると地域で活動されている方は、その責任の所在をどう見るのか。地域側の人たちがその間の責任を持つのかと言うと、指導者の方も含めて目の行き届かない所に責任は持てない。行政の責任というのも、どう関わるかという話ですね。その狭間を埋めるのは、していただいている事業の位置づけから見ると協力していただける方を探さなくてはならない。これがまたいらっしやらないですね。職員が行って全部するというのも無理ですから、地域の中でどう解決していくかという仕組みを考えていくしかないかと思えますね。ずっとそのような問題がつきまといまいます。

(委員 長) それは芦屋市だけでなく、全国的な課題でしょうね。

(津村委員) ですから元々は放課後こどもプランや留守家庭児童会なんかもそうですが、学校が終わって児童館でそこで放課後の子どもたちを見ていたという取り組みから、本来やはり学校という施設を有効に活用すべきだということがあって、どちらかというところそういう取り組みに変わっていきました。たまたま芦屋市は留守家庭児童会も学校の中にありますから、その利便性はあるのですが、どうしても事業と事業の狭間が問題になってくる。そういうことがあるかと思えます。

(委員 長) これも深い問題ですが、大事な部分ですね。他の何箇所かでも共通の背景があるのだろうと思えますね。

すみません、予定していた時間を過ぎてしまっているのですが、是非これだけは言っておきたいというようなことがあればお伺いしたいと思うのですが、ないですか。よろしいですか。

では、事務局から連絡事項や確認しておくべきことがありますか。

【事務局より、連絡事項を伝える】

(委員 長) 24年度は既に計画沿って各課に事業を推進していただいていると思いますが、今日の皆さまの意見も改めて反映していただきたいと思えます。

それでは皆さん、遅くまで本当にありがとうございました。足元お気をつけてお帰りくださいませ。これで閉会したいと思います。

<閉 会>